

ヨハネの福音書 第1章 29節

「ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」

荒野で叫ぶ最後の預言者の声、と古の預言者イザヤによって紹介されたバプテスマのヨハネの叫びです。荒野で叫んだとしても周辺にどれだけの人がいるだろうか。地理的に荒れた地であれば、聞く者はほとんど居ないと言えます。たとえ街中だとしても、叫びに耳を貸す暇がない者たちばかりでしょう。それでも叫ぶ声があります。

見よ、と呼びかけます。何も見ていない者、慌ただしさの中で見ようとしな
い者、多くを見るあまりうつろな目で何も見ていない者もいます。その生活に、
荒野から、見よ、と一点に集中する呼びかけです。ヨハネ自身が見ています。
見て、すぐさま人々に是非見て欲しいと叫び願います。見逃さないで欲しい強
い願いがあります。

世界に数限りない見たいもの、ことがあります。限りある命でそのすべてを
体験することは不可能です。しかし、限りある命で唯一見るべきお方がいます。
それをヨハネは荒野であっても、見よ、と呼びかけます。「世の罪を取り除く神
の小羊。」荒野の声はやがて殉教者となります。吹き抜ける風のように消えます。
声を残して。